



# NEWS

## 医療圏を越えた医薬品共同調達等に関する合意書の締結について

総務課企画調査係

当院は、岡山大学病院、岡山赤十字病院、岡山市立市民病院とともに、医療圏を越えた医薬品の共同調達等に関する合意書を2026年5月21日(木)に締結しました。同日、岡山大学において調印式が行われ、本学からは大谷浩学長および椎名浩昭病院長が出席しました。

本取り組みは、医薬品の安定供給と標準治療の確立を目的とするもので、4機関が連携し、医学的妥当性と経済性を踏まえた医薬品使用方針(フォーミュラー)の共同策定や、安定確保が必要な医薬品の共同調達を進めるものです。これにより、医薬品の供給体制の安定化と標準治療の統一を図り、医療の質の確保につなげます。

近年は、特にジェネリック医薬品を中心に供給不安が生じており、医療現場では対応の負担が増大しています。本学の参画により、岡山地域で構築されてきた仕組みを広域に展開し、より安定した医療提供体制の確保を目指します。



岡山大学・島根大学・岡山赤十字病院・岡山市立総合医療センター  
「医薬品の標準治療の確立」及び「安定確保重点医薬品の運用」合意書調印式

問い合わせ先 総務課企画調査係 TEL:0853-20-2531



### 令和7年 ワークライフバランス川柳 優秀作品

賞名	受賞作品	ペンネーム(又は氏名)
金崎副病院長賞	「もう少し」家路につけない 思い腰	はちみつと紅茶
渡部病院長補佐賞	明けの朝 日勤来ると 安堵感	うめ
管野病院長補佐賞	父になり 初めて分かった 親のAI	アサイーおじさん
一瀬病院長補佐賞	押し事に 時間を使い 仕事頑張る	お薬亭

### CONTENTS

表紙：循環器内科 教授 中村 一文

中表紙

- ・教授就任のご挨拶
- ・栄養士長就任のご挨拶

裏表紙

- ・医療圏を越えた医薬品共同調達等に関する合意書の締結について



# 教授就任のご挨拶

臨床検査医学講座 教授 やの しょうぞう  
矢野 彰三

このたび、臨床検査医学講座教授を拝命いたしました矢野彰三と申します。これまで当院の検査部長、栄養サポートセンター長として、検査部運営やNST活動に関わって参りました。特に COVID-19 パンデミックの際には、皆さま方のご指導、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

本学の臨床検査医学講座は1991年に開設され、今年には35年目にあたります。臨床検査は、一般検査、生化学・免疫検査、血液検査、輸血検査、POCT（臨床現場即時検査）、細菌検査、細胞診検査、心電図・脳波・超音波検査など、診療科横断的で幅広く、かつ専門性も求められます。医療がますます多様化・複雑化する中で、優秀な臨床検査技師や専門医の需要が高まっています。一方、臨床検査は比較的歴史ある学問でありながら、専門医は非常に希少です。今後は検査医学の魅力を発信しながら、教育や研究を通じて人材育成と検査領域の発展に貢献したいと考えております。

当院検査部の日常業務には、採血業務、各検査実施、精度管理、治験検査、委受託検査（外注・遺伝子・小児マス）などがあり、地域医療・高度医療の要として機能しています。当院の理念である「地域医療と先進医療の調和」の体現を目指し、「街の中にいつも大学病院がある」という安心感を支えるべく、検査部・臨床検査科の透明性の高い運営と安全管理に努めて参ります。

今後ともご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 栄養士長就任のご挨拶

栄養治療室 栄養士長 やすはら みずほ  
安原 みずほ

2026年6月1日より栄養士長を拝命しました、管理栄養士の安原みずほです。これまで、糖尿病や腎臓病などの生活習慣病領域をはじめ、急性期医療や地域医療に携わる中で、栄養指導や多職種連携に取り組んでまいりました。栄養は治療を支える基本であるとともに、日々の生活や気持ちを支える大切なものでも感じています。

入院中のお食事は、治療の一環として提供されるものです。必要に応じてエネルギー量や栄養素の配分、食塩量の調整、摂食・嚥下機能への配慮などを行います。しかし、その力は実際に召し上がっていただいて初めて十分に発揮されます。安心してお召し上がりいただけるよう衛生管理を徹底しながら、「おいしい」「楽しい」「懐かしい」と感じていただける、心が和むような食事の提供を大切にしたいと考えています。さらに、入院中のお食事が退院後の食生活のヒントとなり、継続的な健康づくりにつながることも願っています。

また、入院中だけでなく、手術前後や退院後の生活も見据えながら、患者さん一人ひとりを尊重し、それぞれに応じた栄養支援を行いたいと考えています。退院後も必要な栄養管理が継続できるよう、変化する医療環境にも対応しながら、より良い栄養支援につなげてまいります。

まずは、この地域や当院について学びながら、皆様のお力になれるよう、一歩ずつ取り組んでいきます。よろしく願いいたします。



問い合わせ先 臨床検査医学講座 TEL:0853-20-2409

問い合わせ先 栄養治療室 TEL:0853-20-2074



# ご報告

島大病院ニュース 2026年7月

国際誌で注目

## スウェーデン留学での研究成果が 年間最多閲覧論文に選出されました！

救急医学講座 助教 さとう りえ  
佐藤 利栄



このたび、2024年に国際誌「Journal of General and Family Medicine」に掲載された私の論文が、同誌ウェブサイトにおいて年間で最も閲覧された論文として「Top viewed article in 2025」に選出されました。

同誌は、日本プライマリ・ケア連合学会の公式英文学術誌であり、一般内科、家庭医療、プライマリケア領域を中心に国内外の医療者に広く読まれています。

私は2023年～2024年に上原記念生命科学財団の助成を受け、スウェーデン・ルンド大学医学部に留学しました。本論文は、私が留学中に執筆したもので、日本の医療制度が抱える「高齢化に伴う医療費の増大」や「医師の過重労働」といった課題に対し、スウェーデンのプライマリケア制度を参考にした新たな医療体制の可能性を提案したものです。スウェーデンでは、総合診療医と専門看護師が連携して地域医療の多くを担い、専門教育を受けた看護師が診療の一部を担当することで、効率的で持続可能な医療体制が実現されています。

現地での経験を通じて、「限られた医療資源をいかに有効活用し、国民皆保険制度を維持するか」という研究テーマに大きな示唆を得ました。

医師となって以来、日本の国民皆保険制度を将来にわたり維持するために何が必要かを考え続けてきました。今回の選出は、多くの方々が同じ問題意識を共有してくださっていることを実感し大きな励みとなりました。今後も臨床医として、また研究者として、日本のより良い医療制度の実現に向けて研究を続けてまいります。

**A proposed medical system change in Japan inspired by Swedish primary health care: Important role of general practitioners and specialist nurses at primary health care centers**  
Rie Sato MD, PhD, Ulf Jakobsson PhD, RNT, PHN, Patrik Midlöv MD, PhD  
Journal of General and Family Medicine (Wiley)  
DOI: 10.1002/jgf2.726



受賞論文

問合せ先 救急医学講座 TEL : 0853-20-2402



2026年7月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# ご報告

島大病院ニュース 2026年7月

入院編

## 患者満足度アンケートの自由記述(不満・要望)から 読み解く改善の手がかり

患者満足度向上WG  
医療情報部 准教授 かわむら としひこ  
河村 敏彦

当院では、入院患者さんを対象とした患者満足度アンケートを実施しています。2025年度の自由記述(不満・要望 269件)を分析した結果、「施設・設備・清掃」(26.4%)、「説明・案内不足」(17.8%)が特に多く、この2項目で半数近くになりました。これに「療養環境・病室マナー」「食事」が続き、上位4項目で全体の約3分の2を占めました(図)。

「施設・設備・清掃」では、シャワーやトイレなどの水回り、空調、清掃に関する不満が多く見られました。これらは医療行為そのものではありませんが、入院生活の快適性に直結し、満足度に大きく影響します。また「説明・案内不足」では、手続きや院内システム、生活ルールに関して「分かりにくい」「知らなかった」といった声が多く寄せられました。必要な情報が十分に伝わらないことは、不安や戸惑いにつながります。

さらに「療養環境・病室マナー」や「食事」に関する不満も一定数見られ、周囲の生活音やマナー、食事の内容・提供方法など、入院生活全体の質に関わる指摘が含まれていました。

以上より、入院患者さんの不満の約3分の2は、「環境」や「運用」といった医療行為以外の要因に起因することが明らかとなりました。今後は療養環境の整備、情報提供の充実、運用の見直しを通じて、患者視点に立った改善を進めてまいります。

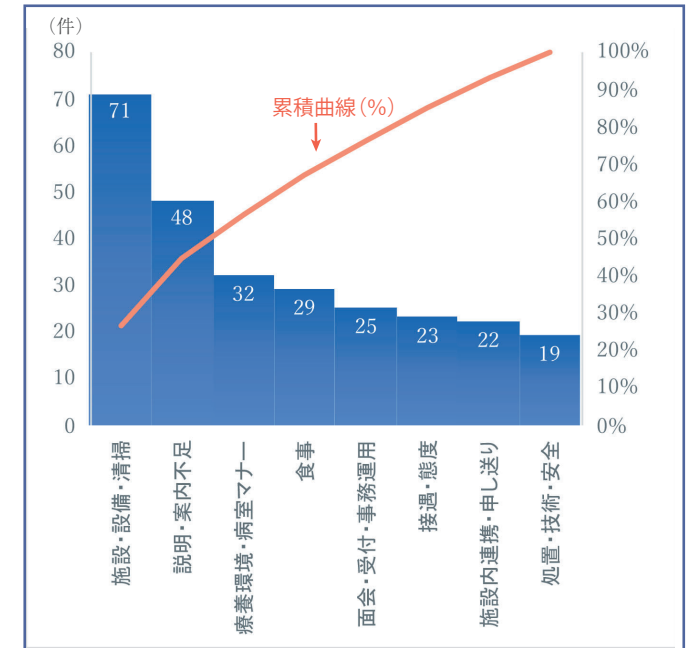


図 自由記述(不満・要望)の分類別出現件数

問合せ先 医療サービス課 TEL : 0853-88-3401



2026年7月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



# ご報告



## 「看護の日」のイベントを開催しました

看護部長 かわかみ としえ  
川上 利枝

5月12日は「看護の日」です。この日は、近代看護の礎を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、1990年に旧厚生省により制定されました。高齢社会を支えていくために、「ケアの心」「看護の心」「助け合いの心」という3つの心を一人ひとりが分かち合い、社会全体で育てていくきっかけとなることを目的としています。

当院看護部では、この「看護の日」にあわせて、2026年5月14日（木）に『健康講座』と『ハンドマッサージ』のイベントを開催しました。『健康講座』では、「“ ついで ” でOK!待ち時間をリハビリに変えるコツ」をテーマに、リハビリテーション部の平野瑛士理学療法士が講師を務め、肩こりや腰痛、膝痛の予防につながるストレッチを紹介しました（写真1）。外来患者さんや地域の方々にご参加いただき、実際に身体を動かしていただく参加型の講座となりました。参加者からは、「少しの運動で肩が軽くなりました」「自宅でもテレビを見ながら続けてみたいです」といった感想が寄せられ、健康への関心の高さがうかがえました。

『ハンドマッサージ』では、4種類のアロマオイルを用意し、お好みの香りでマッサージを行いました（写真2）。マッサージ後には、「毎日頑張っている自分へのご褒美です」といったお言葉をいただくなど、患者さんやご家族がこれまでの思いを語ってくださる貴重な時間ともなりました。

今回のイベントを通して、地域の皆さまに看護や健康について少しでも身近に感じていただく機会となれば幸いです。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



写真1 理学療法士による『健康講座』



写真2 『ハンドマッサージ』の様子



## 令和7年度学生表彰を受けました

島根大学医学部医学科6年 あまの きさ  
天野 希咲

第26回大阪国際音楽コンクール（Section IIIアマチュア部門ヴィルトーゾコース）においてピアノ演奏で3位を拝し、令和7年度学生表彰を賜りました。この度は身に余る表彰に、皆様に心より感謝申し上げます。

練習は実習中の隙間時間を使って学内のピアノで行い、コンクールには臨床実習を欠席することなく出場しました。ピアノは勉強前に弾くと私の心を整え、行き詰まった時には心を潤すので、私にとってピアノは学業の成就にかけがえのないものになっています。この環境がある島根大学で学べることに日々幸せを感じています。

2歳からピアノを始め、6歳からコンクールに出場し、本番中に演奏が止まった失敗や椅子がずれたアクシデントに遭遇しました。弾き直しができない独特の緊張感の中で予測不可能なアクシデントを乗り越えるために、原因の分析とリスクに備える習慣が身につきました。

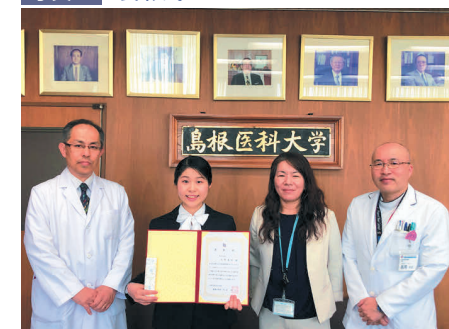
現在では、臨床の場で教科書通りにいかない場面でもパニックにならず、今の状況で最善は何かと冷静に考えることができ、ステージという一発勝負の厳しい場所での経験がとても役立っています。

ピアノを通じて磨いた楽譜の裏側にある感情を読み取る力を活かして、患者さんの言葉にできない思いに寄り添える診療を行える医師になることが今の私の目標です。そしていつか患者さんの前でピアノを演奏する機会に恵まれることを願っています。医療に音楽の力を融合させて、生まれ育った島根県の地域医療に全力で貢献したいです。

この度は本当にありがとうございました。

問合せ先 学務課学生支援担当 TEL: 0853-20-2088

写真1 表彰式



左より竹谷医学部長、著者、加藤看護学科准教授（ピアノ・エレクトーンサークル顧問教員）、長尾教務学生委員長

写真2 コンクール会場





島大病院ニュース 2026年7月

# ご報告



島大病院ニュース 2026年7月

# お知らせ



## 出雲キャンパスの清掃を行いました

会計課施設管理室長 よしだ たいき  
吉田 泰樹

当院の環境整備は、各種団体のボランティアの方々に定期的に行っていただくほか、業者に委託していますが、職員のボランティアによる環境整備も実施しています。

今回は、5月に実施した出雲キャンパスクリーンデー（構内一斉清掃）の報告です。

環境月間に当たる6月を前に、教職員の力によりキャンパス内の景観を整えるキャンパスクリーンデーを実施しました。2026年5月26日（火）に、椎名病院長をはじめとした教職員総勢約90名により、本部棟と臨床講義棟周辺や教職員が行きかう医の庭と基礎研究棟・医学図書館周辺の除草・草木の回収等の清掃活動を行いました。

当日は、初夏にしては少し蒸し暑さを感じる天候でしたが、参加者の方には懸命に作業に取り組んでもらい、気持ちのよい環境となりました。

今後も医学部ならびに当院の美観を維持するボランティア清掃活動にご理解・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



問合せ先 会計課施設管理室 TEL : 0853-20-2549



脊髄後根を選択的に刺激

理学療法士の術中触診

神経刺激とその結果を術中に解析し切断する神経根を判断

## 小児痙縮に対する 選択的脊髄後根切断術を開始しました

小児脳神経センター 准教授 きみわだ とみみ  
君和田 友美

2026年3月より、当院小児脳神経センターでは、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター整形外科の金城健医師ご指導のもと、小児痙縮に対する「選択的脊髄後根切断術（Selective Dorsal Rhizotomy : SDR）」を開始いたしました。また、5月には、院内勉強会も開催しました。

痙縮とは、脳性麻痺などにより筋肉の緊張が強くなり、歩行障害や姿勢異常、関節拘縮、疼痛などを引き起こす状態です。SDRは、痙縮の原因となる脊髄後根の一部を選択的に切断することで、筋緊張を軽減し、運動機能や日常生活動作の改善を目指す手術です。欧米では長年にわたり実施されている標準治療の一つであり、近年は国内でも徐々に導入施設が増えています。

当院では、小児脳神経外科医、リハビリテーション科医、麻酔科医、理学療法士、臨床工学技師、看護師らによる多職種チームで適応を慎重に検討し、術前から術後まで一貫した支援体制を整えています。特に術後リハビリテーションは機能改善に重要であり、地域医療機関とも連携しながら継続的なフォローアップを行っています。

下肢の痙縮でお困りのお子さんがおられましたら、お気軽にご相談ください。



手術は当院小児脳神経外科医と金城医師が担当

問合せ先 脳神経外科医局 TEL : 0853-20-2245



2026年7月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2026年7月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告



# ご報告



## 外来転倒転落対策チームの活動紹介

転倒転落対策チーム（会計課施設管理室長） よしだ たいき  
吉田 泰樹

当院では、転倒転落対策ワーキンググループ（WG）の下部組織として、多職種で構成する「外来転倒転落対策チーム」を設置し、外来における転倒・転落防止に取り組んでいます。

外来ラウンドや事例検討を通じて、待合椅子の配置、患者動線、案内表示、床環境、車椅子スペースなどの課題を抽出し、環境改善や再発防止策の検討を行っています。（写真1）

事例として、患者さんが待合椅子をAED付近まで移動されるケースがあり、AED収納箱の角部に頭をぶつける危険性が考えられたため、AED周辺が認識しやすくなるよう張り紙を掲示し対策を行いました。（写真2）

また、AEDや消火器周辺の安全確保、処置後患者の観察体制の見直しなどにも取り組んでいます。

外来は患者さんの状態や利用環境が多様であるため、今後も多職種で連携しながら、安全で利用しやすい外来環境づくりを進めてまいります。



写真1 外来転倒転落対策チームによる現場ラウンドの様子



写真2 AED周辺の安全対策について検討する職員

問合せ先 医療安全管理部 TEL：0853-20-2066

## 季節の和菓子作り&お抹茶体験

小児科教授 たけたに たけし  
竹谷 健  
病棟保育士(ホスピタル・プレイ・スペシャリスト) つばき あつみ  
椿 敦美  
チャイルド・ライフ・スペシャリスト くろさき  
黒崎 あかね

地元の和菓子店「坂根屋」様ご協力のもと、入院中の子どもたちを対象に「季節の和菓子作り&お抹茶体験」を開催しました。今回作ったのは、梅雨の季節をイメージした「あじさい」と「うめ」の和菓子です。

この企画は、小学校5年生の子どもから「学校でお茶を飲む授業を楽しみにしていたけど、入院しているから参加できない。病院でもできますか?」という声が寄せられたことがきっかけで実現しました。

当日は子どもたちのさまざまな成長や心の変化が見られました。普段はイベントへの参加が苦手な3歳の子どもが、「お花みたいなのを作る」と笑顔で参加しました。また、「上手に作れるかな」と不安そうだった7歳の子どもに、「おいしくなあれ!と心を込めて作れば大丈夫だよ」と声をかけると、「お父さんとお母さん、喜んでくれるかな」と話しながら、一生懸命に和菓子作りに取り組んでいました。

子どもたちはそれぞれ個性あふれる和菓子を完成させ、竹谷教授が点てたお抹茶とともに味わいました。本物の材料に触れながら和菓子を作る体験は、子どもたちの五感を刺激し、創造力や達成感を育みます。また、大切な人を思い浮かべながら作ることで、思いやりの気持ちを育む機会にもなりました。

ご協力いただいた坂根屋様、そして医学部茶道部の皆様に心より感謝申し上げます。今後も、病気と向き合う子どもたちの心が動く体験を提供できるよう活動を続けてまいります。



みんなで作った和菓子

問合せ先 小児科病棟 TEL：0853-20-2616

